

2024年度 学校評価報告書

1 教育目標

- ★ 目指す園児像 「明朗・和・感謝・忍耐・自発性」の5つの姿の園児を目指します。
- ★ 具体的な園児の姿
- 1 きほんの力・・・基本的な生活習慣を身につけ、元気な身体と明るい心で笑顔で過ごせる子どもに！
2 大切にする心・・・一人ひとりが神さまに大切にされていることを感じたら嬉しくなり、お友だちやすべての生き物のいのちも大切にできる子どもに！
3 感謝する心・・・私たち生命・幸せは、神さまやたくさんの人々のおかげです。“ありがとう”と素直に感謝できる子どもに！
4 つなげる力・・・自分の言葉でつなげましょう。すぐにあきらめずに、よく見てよく考えて挑戦し、明日の自分につなげる子どもに！
5 人のために動く・・・自分が嬉しいよりも喜んでもらえるのはもっと嬉しいこと。人のために進んで何かできる喜びを感じられる子どもに！

2 今年度の重点目標

年間テーマ：さあ、漕ぎだそう、奏でよう
～どんな時も神様を信じて、こども達・仲間・家族と共に・・・！～

*75周年を迎える、これからをみすえて

- ①1歳半から受入れのこの機に、乳児保育を含めた保育の質、安全な保育環境を保障する
②安全基準にあった総合遊具にし、時代のニーズに合わせてHPをリニューアルする

3 評価項目と取組状況

評価項目	具体的な取組み内容と達成状況
教育充実のための取り組み	<ul style="list-style-type: none">・こども理解と関わり方を皆で学び共有して、チームとしての力をつけることで、個別支援を要する多くのこども達を含め、すべてのこども達が安心して笑顔で過ごすことができるように関わった。・今年度より1歳半児を受け入れ、その心と身体の安全・成長を最優先に、これからマリアの元となる保育計画の作成ができた。・日々のお祈りに加えて、月1回の学年ごとの神さまのお話や宗教行事、神父様との時間（年長）などを通して、神さまがいつも一緒にいて下さることを感じられる子ども達になってきた。
教職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none">・特別支援や絵画などの園内研修は定着し、一定の成果をあげつつあり、zoom研修の多いキャリアアップ講座に挑戦する教職員も多く、学ぶ雰囲気を大切に継続できた。・1歳半の乳児の受け入れに伴い、環境設定や保育内容（ねらいや玩具を含めて）について学び、共有することができた。・元正職2人を非常勤で採用、卒園児の採用などの仲間を得ることができ、教職員の信頼関係・支えあいが園の雰囲気を作っていると感じることができた。

保育・教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 現在の安全基準に合わないものや破損個所のある遊具がサンタ・マリア号となり、75周年にふさわしい船出になった。 1・2歳児の2部屋を機能的に使用できるよう壁の一部を抜き、少しづつ使い勝手の良い空間となるよう工夫できた。 近隣の自然が豊かであり、赤字の園バスがあることを逆手にとり、学期に1回以上の園外保育を計画することができた。
保護者・地域との連携 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> レーザーキッズ（LK）の利用を手紙の配信や日々の預かり利用の申込み、アンケートなどに広げて活用でき、日々の保育活動の可視化にもつながった。 ニーズに合った使い勝手の良いHPにリニューアルでき、保護者にも好評であり、園選びの窓口として大いに貢献している手応えを感じている。 コロナ以降懸案であった小学校との接続では、やっと秋の行事に参加でき、近隣の園所では順番に公開保育を行い学びあう横のつながりも始まった。 近隣の工場・企業との関係も良好で、お芋ほりに招待され、ハロウィンのお菓子を頂いている。また、年中はあゆみ愛、年長は仁豊野ヴィラを訪問するなど高齢者施設への訪問も定着してきた。 PTA有志による年に1回のお楽しみ企画（全園児）や卒園児へのサプライズ企画、また卒園児保護者も含む有志によるマリアバザーなど、楽しんで企画して園児たちを含め皆で楽しい時間を共有することができた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- 今年度は「さあ、漕ぎだそう、奏でよう」という年主題に対し、マリアでは～どんな時も神さまを信じて、こども達・仲間・家族とともに・・・～というテーマを意識して一年間過ごした。
- 保護者アンケートの中で「どんな時でも心を込めた保育をして下さり、こどもが先生のことが大好きで、笑顔で登園するのが何よりも嬉しいです」「学年に関係なく関わってくださるので安心感があります」「入園後、自分でやってみたいという気持ちが芽生え、できることが増えています。先生方の温かい対応のおかげです」など、カトリック園として一番大事にしているこども達の根っこを育てるお手伝いは概ねできてきたと思います。
- これに満足せず、見えている課題に真摯に向き合い、こども達の心身の成長のために少しでも良い環境・こども達の目がきらきらするような保育を展開できるように、私たち教職員も学び続けたいと思います。

今年度も保護者の皆さんをはじめ、近隣の方々、神父様はじめ教会の皆様、療育や医療の専門家の方々、多くの皆様に支えられてこの一年を過ごせたことに感謝したいと思います。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育充実のために	<ul style="list-style-type: none"> こどもの主体的な学びを意識し、狙いを意識してバランスよい計画を落とし込み具体的な計画を策定する。実用的な保育案に改定する。 保育部（1・2歳児）の遊び中心の乳児保育が保証できるよう、幼稚園部（3歳以上）との接点を見直す。行事の参加方法など次年度の変更を見据えて課題を整理する。 個別支援が必要な園児が増大する見通しの中、保護者や臨床心理士とはもちろんのこと、療育の担当者との連携も密にし、学級・学年団のチームで対応する力をつける。

教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 研修の学びを個人のものとせず、終礼などで共有し、こども理解や関わり方のスキルをあげる機会とする。新採用を迎える、チームとしての保育力を高めることを意識して学びあう。 カトリック信徒の教職員が減ってきており、カトリック研修を定着させると共に、毎月のテーマに沿った保育の助けになる情報発信を園長は心がける。
環境設定・整備	<ul style="list-style-type: none"> 保育部の安全な遊び場の確保に向けて、乳幼児対象の遊具を導入すると同時に、次年度に向けて、抜本的な計画を策定していく。 園児用トイレの改修を行い、衛生的にこども達が喜んで使用できるようにし、同時に管理棟（職員室・事務室・玄関）の床を張り替える。 老朽化に伴う掲揚柱の紐の劣化、朽ち始めた掲示板の改修をする。
保護者との連携 地域との連携 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 小学校との連携は待っていても何も始まらないので、こちらから近隣の小学校に働きかけていく。 教育実習生は減っているが、縁があつて実習する学生に丁寧に寄り添い、保育者への夢をもつて来る近隣 4 校の中学生のトライやるも種まきの一つと考えて対応する。

● 2025年度、重点的に取り組む目標・計画

年間テーマ：ともに

～ こどもも大人も 一人ひとり神さまに祝福された大切な存在
大人もこどもも 神さまの恵みの中で通い合う心が育まれますように！ ～

*具体的には ①職員の連携強化と保育の質の向上
②人口減の地域で、公立園も閉鎖の流れの中、時代のニーズや保護者の思いに寄り添い、必要に応えられる園を目指す

6. 学校関係者の評価

- 先生方のこどもに寄り添う丁寧な保育に心温かくなります。様々な不安に思いながらも全力で関わっておられる先生方の思いにエールを贈ります。
- 年長・年中の保護者については、園の方針を理解されているのを感じますが、園児の年齢が低い保護者は、子育ての不安も大きいのか、園の情報を早く知りたいと思い、またネット上の話題も気になつているのを感じました。
- 一年間の取り組みを世の中やこども達の違いに応じて、工夫できた部分が多かったですが、もう一息の部分もあったように思います。
- 今の世の中、すべてにおいて同じなのかな…とは思いますが、保護者も横のつながりが難しいのだと感じました。